



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.14
令和3年11月30日
文責：校長 福島

つながる



Rainbow 一人一人違いますが、虹の弧はつながっています。7色の光も境目なく連続しています。

好天の下、運動会を終えることができました。たくさんの応援とサポートをいただいたことに感謝しています。

以前のようにみんなが一同に会することが難しくなりました。だからこそ、「つながり」を感じられる運動会にしたいと思っていました。離れているからこそ感じられる一体感があります。

そう考えたのには、2つのきっかけがありました。

1つは東京オリンピック・パラリンピックです。テレビを通してですが、選手の活躍に涙し、心躍らせ、国民が一体となった感動を覚えました。スポーツの持つ魅力を改めて感じました。

もう1つは5年生自然教室の出発式でした。「行ってらっしゃーい！」教室の窓からたくさんの学年の子供たちが手を振って見送ってくれました。「運動場と教室でもこんなにつながれるんだ。」あたたかい気持ちで出発しました。

おやじの会の協力により、子供たちの演技をライブ配信することができました。一生懸命な姿を通して気持ちはつながります。教室を回ってみましたが、どの学年も一生懸命モニタ画面に向かって応援していました。6年生の表現が終わった時に「6年生すごーい。」という声が、教室から運動場までに聞こえてきたときはとてもうれしかったです。

閉会式で私は教室の運動場側の窓を開けさせ、運動会を支えてくれた人への感謝の気持ちを拍手で伝えました。「6年生を中心に、運動会を支えてくれたかすがっ子のリーダーに感謝の気持ちを伝えましょう。ありがとうございました。(拍手)」運動場にもしっかりと拍手は届きました。何とも言えない心地よい一体感を感じることができました。応援して下さった家族や親戚、地域の方にもライブ配信で拍手を届けました。受け取っていただけたでしょうか。

新しい形の運動会でしたが、これまで以上に「つながり」を感じることができました。

コミュニティ・スクールは、子供を核として地域のみながつながっていく「共生社会」をゴールにしています。第120回運動会はコミュニティ・スクールの可能性を大いに感じさせてくれるものとなりました。